

# 万一事故を起こしてしまったら

## 自転車を取り巻く事故のリスク

自転車は、その気軽さや便利さの裏にさまざまな危険が潜んでいます。自分がケガをするだけでなく、歩行者にケガをさせたり、財物を壊したりするケースもあります。まずは、この3つの事故のリスクをしっかりと認識しましょう。

**自分のケガ** **3つのリスク**

- 財物を壊す (損害を与える)**
- 他人にケガをさせる**

## もしも事故を起こしてしまったら

事故を起こしてしまった場合、気が動転して的確な対応ができないこともあります。以下の手順を参考に、落ち着いて行動できるようにしましょう。

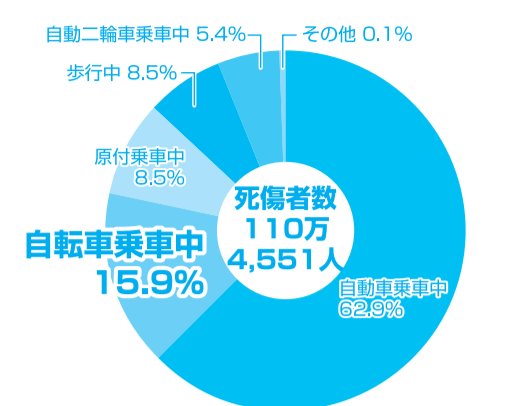
- ①ケガ人の救護** ケガ人がいる場合は、ケガ人の手当てが最優先です。まず救急車を呼びましょう。
- ②道路上の危険防止** 二次災害を防止するため、路肩や歩道など安全な場所に自転車を移動させましょう。
- ③警察への通報** 現場をよく確認し、落ち着いて警察に通報しましょう。警察への届出がないと、「交通事故証明書」が発行されません。
- ④事故状況の確認** 事故の相手方の名前、住所、連絡先などを確認し、簡単な事故状況メモをつくりましょう。
- ⑤損害保険会社への連絡** 事故の状況をただちに損害保険会社または損害保険代理店に連絡してください。

# 自転車は危険な乗り物!?

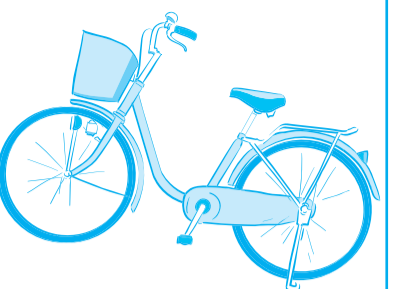
各地で多発している自転車事故。ではいったいどのような事故が起きているのでしょうか?ここでは、最近の自転車事故の発生状況や事例を見ながら、その実態を探ってみましょう。

**主な要因は安全不確認、一時不停止、信号無視**

図1 状態別死傷者数の割合(平成18年)



自転車乗用中の死傷者数は、交通事故全体の約16%を占め、自動車乗用中に次いで2番目です(図1)。自転車乗用中の死傷者数を年齢別に見ると、16歳~24歳の若者と15歳以下の子どもで約4割を占めています(図2)。

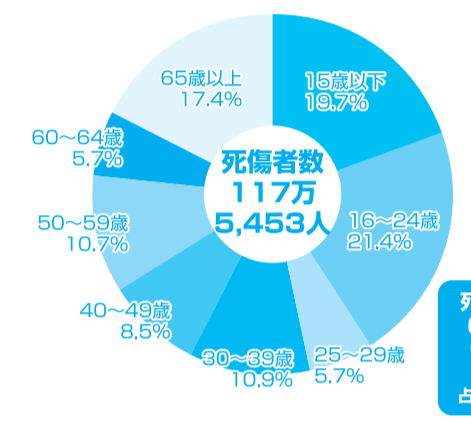


## 特集

# 自転車事故の実態

### こんな事故が起きています!

図2 自転車乗用中の年齢層別死傷者数の割合(平成18年)



死者数では、65歳以上の高齢者が約6割を占めています。

上駐車のを避けようとして反射的に車道側にハンドルを切ったところ、後から来た乗用車が避けきれず、Aさんは前方に投げ出され大ケガを負いました。

**①事故の原因**  
第一原因は乗用車の注意義務違反ですが、Aさんが後方の安全をよく確認しないまま、急に進路変更したことが事故の大きな原因です。

自転車事故の8割以上が自動車との事故です。また、事故類型としては出会い頭による事故が圧倒的に多く半数以上を占め、次いで右左折時の衝突、横断時の衝突と続きます。

自転車事故を起こす主な要因は、安全不確認、一時不停止、信号無視です。また、最近では歩道を無秩序に通行する自転車による事故も多発しています。

**②一時不停止**  
信号のない見通しの悪い交差点に主婦Bさんが自転車で進入したところ、乗用車と出会い頭に衝突。Bさんは腕の骨を折る大ケガを負いました。

**③事故の原因**  
乗用車側の注意義務違反もありますが、Bさんが一時停止の標識、標示を無視して、左右の安全確認をしないまま飛び出したことが大きな原因です。

**④歩道上での歩行者との接触**  
女子大生Dさんが、自転車通行可の歩道上を自転車で行中、おばあさんのバッグのひもがハンドルにからまり、転倒したおばあさんは、意識不明の重傷となりました。

**⑤事故の原因**  
Dさんが、歩道の車道寄りについて止まれる速さで走っていたことが、大きな原因です。

**③信号無視**  
高校生C君は赤信号を無視して交差点に進入。そこに走ってきたトラックと出会い頭に衝突し頭に大きなケガを負いました。

**④事故の原因**  
トラックの前方不注意も事故の要因ではありますが、この場合、C君が赤信号を無視して交差点に進入したことが大きな原因です。

## 自転車事故で問われる責任

自転車だから大丈夫。事故を起こしたとしても大事にはならない……。そんな軽はずみな気持ちが、死傷者を出す重大な事故につながります。道路交通法上、自転車は車両の一種(軽車両)です。法律違反をして事故を起こすと、自転車利用者は刑事上の責任が問われます。また相手にケガを負わせた場合、民事上の損害賠償責任も発生します。

<b>刑事上の責任</b>	相手を死傷させた場合、「重過失致死傷罪」となります。
<b>民事上の責任</b>	被害者に対する損害賠償の責任を負います。
<b>道義的な責任</b>	被害者を見舞い、誠実に謝罪する責任があります。

### 〈自転車での加害事故例〉

事故の概要	賠償金
自転車通学中の高校生が誤って歩行者に衝突し、脊椎損傷の重傷を負わせた。	6,008万円
女子高校生が夜間、携帯電話を操作しながら無灯火で走行中、看護師の女性と衝突。女性には、重大な障害が残った。	5,000万円
夜間、無灯火の自転車で帰宅途中の高校生が、歩行者に気づかず衝突し、死亡させた。	1,169万円

自転車での転倒など思わぬ事故による自分のケガに備えるには「傷害保険」があり、他人の財物を壊したり、ケガをさせた場合の損害賠償に備えるには「個人賠償責任保険」があります。くわしくは保険代理店にお問い合わせください。



## 行楽シーズン到来! 高速道路の安全走行

長距離走行では、高速道路を利用する機会が多いと考えられます。高速道路は信号機も交差点もなく大変走りやすい道路ですが、その反面、いったん事故が発生すると重大な人身事故につながる可能性があります。そこで、高速道路における安全走行のポイントをおさらいし、一度確認しておきましょう。

### 安全運転のポイント

**①余裕のある走行計画を立てる**  
長距離走行では、まず、余裕の時間の余裕を十分にみる。

**②こまめに休憩をとる**  
長時間の連続運転は疲労の原因となり、注意力や集中力の低下を招きますから、1~2時間に1回、15分以上の休憩をとるようにしましょう。高速道路の場合、サービスエリアが約50キロメートル毎、パーキングエリアが約15キロメートル毎に設置されていますから、あらかじめどこで休憩をとるかを決めておくのがよいでしょう。

なお、休憩時には、軽く体操を



### 車両の点検について

燃料は十分に入っているか、エンジンオイルは十分に入っているか、バッテリー液は適量か、冷却

水は十分か水もれはないか、ブレーキの張り具合は適当か、キズはないか。またタイヤの空気圧は2~3割高めにしておきます。ヘッドライト、方向指示器の点検も忘れずに。

## その他留意点

**後部座席でもシートベルトを**  
助手席の人はもちろんですが、衝突時の衝撃でシートベルトを着用していない後部座席の人が車外に放り出されるというケースが少なくありませんから、後部座席の人にも必ずシートベルトを着用させる必要があります。

**子供づれの場合**  
子供には必ずチャイルドシートを着用させましょう。子供の動きや、飲料の空き缶などに気をとられ、脇見運転にならないよう注意しましょう。空き缶などは収納する場所をあらかじめ確保し、車内で転がったりしないようにしておきましょう。

**最後まで緊張感を持って**  
車を降りるまで決して気を抜かないようにしましょう。特に、帰りの場合、家が目前になった地点でホッとて気が緩み、思いがけない事故を起こすということもありますから、最後の最後まで緊張感を持って運転しましょう。



### 運転疲労を防止する

スピードの出し過ぎや強引な追越しなどは、精神的な緊張を高め、疲労の原因となりますから、こうした無謀な運転を決してしないようにしましょう。イライラしたりカッカした状態での運転も疲労を早めますから、常にゆとりをもった運転を心がけましょう。長距離走行は疲れが蓄積されやすく、その結果、漫然運転や最悪の場合は居眠り運転につながります。したがって、できるだけ疲れを防ぐ運転を心がける必要がありますが、そのためには、こまめに休憩をと

